

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	85人	算数	85人	理科	85人
第5学年	国語	77人	算数	77人	理科	78人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

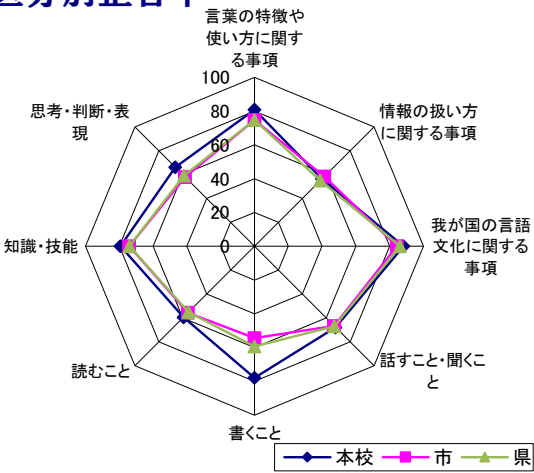
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.8	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	56.5	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.2	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	67.9	66.7	66.9
	書くこと	77.9	54.3	59.3
	読むこと	59.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	79.3	74.1	74.0
	思考・判断・表現	66.2	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

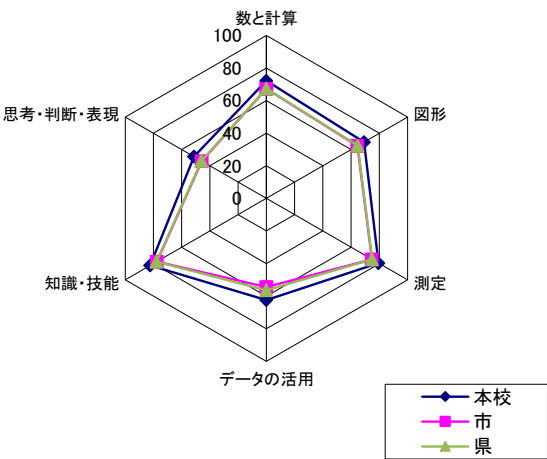
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は80.8%と、市の平均と比べて6.1ポイント高い。 ○漢字の「書き」、主語・述語、こそあど言葉の理解に関しては、市の平均正答率を上回り、正答率も高かった。 ●「ローマ字」においては、正答率が60.0%で、促音の表記についての理解が不十分であった。	・漢字の読み書き、主語・述語、語彙においては、引き続き指導し、さらに力を伸ばしていく。具体的には、漢字練習だけでなく習った漢字を使って文章を書く機会を増やす等工夫していく。また、ローマ字においては、タブレットを使用してのタイピング練習やノートに書くことに力を入れ、定着が図れるよう繰り返し指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は56.5%と、市の平均正答率と比べて1.9ポイント低い。 ●例文で用いられた「うるさく」の意味として、同じ意味になる文を選ぶ問題の正答率が低い。普段は使わないような「うるさい」という意味についての理解が不十分である。	・国語の授業を中心に、語句の意味調べを強化し、国語辞典やタブレットでの語句の検索を積極的に行うようにしていく。その際に、意味が複数ある場合は、活用例などを見て、どの意味に値するか確認しながら調べていくよう助言する。また、国語以外の教科(社会や総合等)の調べ学習等でも、語句や文章の意味が分からなかった際には、その場ですぐに質問したり、調べたりする活動を行うよう、意識化を図っていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は88.2%と、市の平均と比べて3.9ポイント高かった。 ○「イ」にんべんの正答率は88.2%であった。	・漢字練習等で、へんやつくりを意識した学習を引き続き取り入れていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は67.9%と、市の平均と比べてやや高い。 ○「話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ」についての設問では、正答率が95.3%と市の平均正答率を6.3ポイント上回り、話し手が伝えたいことを捉えながら話を聞くことができていた。 ●「参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を選ぶ」についての設問では、正答率が24.7%と市の平均正答率を3.5ポイント下回っていた。	・国語の学習を中心に、中心や場面を抑えて話すよう指導するとともに、朝の会での1分間スピーチ等で継続的に話す活動を取り入れ、話す力と聞く力を高めたい。 ・学級活動の話し合い活動において、司会の仕方のマニュアルをもとに、効果的な司会の進め方の指導をはじめ、意見が多く出された時のまとめ方の指導等も行い、スムーズに進行できるよう指導していく。
書くこと	平均正答率は77.9%と、市の平均と比べて23.6ポイント高い。 ○書くことの平均正答率は、分量・段落分け・構成ともに市の平均正答率を上回っていた。	・指定された字数や段落構成で、文章を書く取り組みに力を入れてきた。成果が見られるので、継続して指導するとともに、集めた情報を取捨選択し、活用する力を高められるようにしていく。
読むこと	平均正答率は59.4%と、市の平均と比べて3.8ポイント高い。 ○物語文の登場人物の気持ちを読み取ることの正答率は89.4%と高い。 ●物語文で、前後の文から推測しながら、登場人物の行動の理由を考えることの正答率が48.2%と低い。 ○説明文の内容をとらえたり、文章の要約を考えたりする問題についての正答率はそれぞれ、71.8%、60.0%で、市の平均より3.1ポイント、8.6ポイント上回っている。 ●説明文の段落の内容をとらえ、前半と後半に分ける問題の正答率は21.3%で、市の平均を7.1ポイントほど上回っているが、低い傾向にある。	・物語文の学習では、場面の展開や登場人物の描写に着目しながら丁寧に読み取り、自分の考えと友達の考えを比較して考えられるよう指導していく。考えを比較する際にも、必ず本文に戻って、どの文からそう感じるかを話し合うよう指導する。 ・説明文の学習では、段落ごとの要点を捉えたり、段落相互の役割や関係を理解したりしながら、論理性を読み取っていく。また、社会科や総合的な学習の時間などと関連させて教科横断的な学習を通して、様々な文章に触れる機会を増やし、要約し、まとめる力などが高められるようにしたい。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.2	67.3	67.4
	図形	69.2	64.5	64.7
	測定	79.4	74.7	74.9
	データの活用	62.4	54.4	56.4
観点	知識・技能	82.4	77.6	77.8
	思考・判断・表現	51.3	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

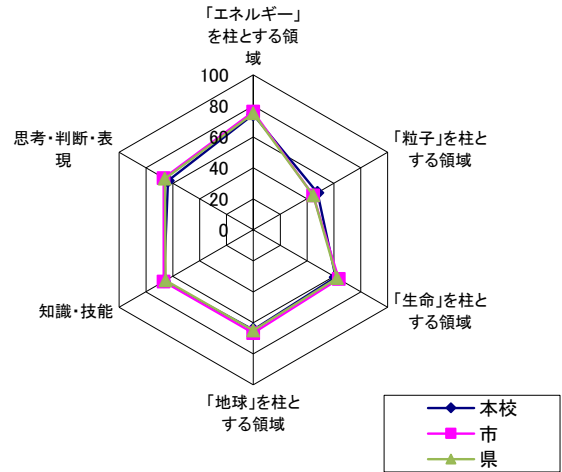
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が72.2%と、市の平均と比べて4.9ポイント高い。 ○問題の半数は80%以上の正答率である。特に、小数や分数の計算では、正答率が高かった。 ●示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って、小数の減法を整数の減法に直して処理する方法を説明する設問では、正答率が18.8%で、市の平均は上回っているものの、短答式や記述式を苦手としている児童が多く、無回答率も高い。	・計算の反復練習を継続することで、基礎的・基本的な計算能力を維持すると共に、授業において、自分の言葉で説明する練習を行い、思考力を高める必要がある。
図形	平均正答率が69.2%と、市の平均と比べて4.7ポイント高い。 ○円の半径と直径について正しいものを選ぶ設問では、90.6%の正答率であった。 ●球の半径について正しいものを選ぶ設問では、正答率が61.2%で、市の平均を2ポイント下回っている。コンパスを使って正三角形が作図できることを説明する設問では、正答率が38.8%で、無回答率も高い。	・図形の性質を正しく理解させ、様々な見方や考え方ができるよう指導していく。 ・コンパス等の道具の特性についての理解を深め、根拠をもって作図できるよう指導する。
測定	平均正答率が79.4%と、市の平均と比べて4.7ポイント高い。 ○全ての設問において市の平均正答率を上回っていた。 ●はかりの重さを読み取り、重さを考える問題では、正答率が55.3%であった。	・基礎的な内容は身に付いているので、引き続き基礎・基本の定着を図り、さらに発展的な問題に取り組ませることで思考力を高めていく。 ・日常生活の中で身近な物の重さを推察し、はかりを用いて読み取る練習を行うことで、重さの感覚を身に付けさせる。 ・単位変換について繰り返し指導していく。
データの活用	平均正答率が62.4%と、市の平均と比べて8.0ポイント高い。 ○1つの棒グラフから情報を読みとる問題では、正答率が94.1%であった。 ●2つの棒グラフを1目盛りの方が異なることに注意しながら読み取る問題では、正答率が30.6%であった。	・社会科の資料の読み取りや、理科の実験の記録等で、データを読み取る際には1目盛りの大きさにや単位に着目できるように指導していく。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.4	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	47.8	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	61.3	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	64.5	66.6	64.9
観点	知識・技能	66.6	66.8	65.4
	思考・判断・表現	63.5	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率が74.4%と、市の平均と比べて1.8ポイント下回っていた。 ○「光のせいしつ」の内容では、「鏡で跳ね返した日光の進み方について正しく理解する」問題で、正答率が94.1%とよくできている。実体験による実験や観察の成果と考えられる。 ●「光のせいしつ」の内容では、「鏡の枚数によって集める日光での温度の違いの実験結果を正しく記録する」問題で、正答率が低い。実験から結果を整理することに課題が見られる。 ●「風とゴムのはたらき」の内容では、「ゴムで動く車の走行距離を実験結果から予想する」問題に課題が見られる。	・今後も実体験による実験や観察を充実させ、実感を伴った理解を充実させていく。 ・図や表を組み合わせたまとめを意図的に行っていく。 ・課題解決型の実験も取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率が47.8%と、市の平均と比べて3.3ポイント上回っていた。 ○「ものの重さから同じ種類の積み木を推察する」問題において、正答率が高い。 ●「姿勢を変えて測った体重が変化するかを実験の結果をもとに記述する」問題の正答率が低い。実験結果に照らし合わせて、根拠を明らかにした説明に課題が見られる。	・実感できる活動を伴った学習を続けていく。 ・学習もまとめの段階で、実験結果に感想や考察を取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率が61.3%と、市の平均と比べて2.3ポイント下回っていた。 ○「植物の体のつくりの共通点を選ぶ」問題については、正答率が高い。実際に育てて、観察したことにより理解が深まったと思われる。 ●「昆虫の体のつくりを理解し、クモが昆虫でない理由を記述する」問題について、正答率が低く課題が見られる。	・これからも子供たち自らの手で種から育てる活動を続けていく。 ・記述問題に対する無回答率も高い。自分の言葉でまとめをする学習を取り入れる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率が64.5%と、市の平均と比べて2.1ポイント下回っていた。 ○「かげと太陽の位置について関係を読み取る」問題では、市の平均と同じように正答率が高い。 ●「太陽の位置の変化を方位で答える」問題について、市の平均と同じように正答率が低い。図を読み取り文章にする力に課題が見られる。	・今後も実感を伴う実験や観察を取り入れていく。 ・様々な情報を組み合わせたまとめを行っていく。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習について、「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」と80%近くの児童が肯定的回答をしており、前向きに学習に取り組んでいることが分かる。

○学習について、「学習して身に付いたことは、将来の仕事や生活に中で役に立つと思う」と肯定的に回答している児童が95%とほとんどであり、将来を見つめた学習の大切さを理解しながら前向きに取り組んでいることが分かる。

○●「授業を集中して受けている」と肯定的に回答している児童が92%いるのに対し、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と肯定的に回答した児童は66%とやや低い。めあてに対して達成できたかという内容で振り返っているが、児童が毎時間の授業で自分の姿を見つめられるような、メタ認知を促す振り返りの仕方を再検討する必要がある。

○学校生活においては、「早寝、早起きを心掛けている」の肯定的回答の割合の高さや「ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか」は9時間以上睡眠をとっている児童が5割以上の高さから、安定した学校生活につながっていると考えられる。

○「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」「自分の良さを人のために生かしたいと思う」に肯定的回答をした児童の割合が県の平均と比べて大きく上回っている。さらに、様々な活動の中で、相手の気持ちを考えた言動がとれるよう、活動の機会を確保していく。

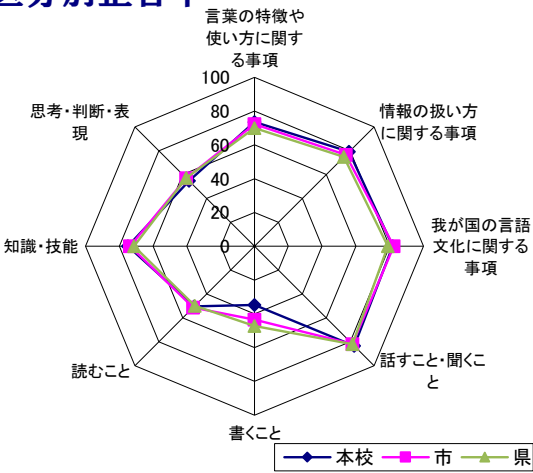
●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」に否定的回答をした児童の割合が県の平均と比べてかなり高い。学級でお互いの良いところを認める機会を意図的に設けていく必要がある。今後も学習や生活において、一人一人が活躍できる場を設け、児童一人一人の自己肯定感が高められるよう、働きかけていく。

○●「家の人と学校での出来事について話をしている」の肯定的回答の割合が、県の平均と比べて高くなっている。一方で、「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定的回答の割合が県の平均よりかなり低いので、キャリア教育と関連させながら家庭での協力を得ていく必要がある。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.6	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	79.2	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	81.8	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	83.4	81.9	82.0
	書くこと	34.7	43.5	47.2
観点	読むこと	50.3	51.4	49.8
	知識・技能	74.9	73.6	71.3
	思考・判断・表現	54.7	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

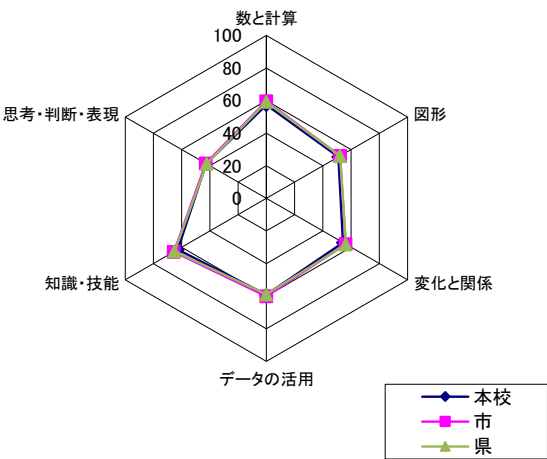
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は73.6%で、市と比べて1.3ポイント高かった。 ○文の中における修飾と被修飾の関係をとらえる項目に関して、県の平均正答率よりも高かった。 ●誤答の内容を見ると、「いるい」の衣と類のどちらの漢字も正しく書けていない児童の割合が、市と比べて12.2ポイント下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章の内容に合った漢字を正しく書けるよう、日頃から多くの文章に慣れ親しんだり、国語辞典をすぐに手に取れる環境づくりをしたりして、語彙を増やしていきたい。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は79.2%で、市と比べて2.8ポイント高かった。 ○「漢字辞典の使い方を理解し、調べ方として適するものを選ぶ」の設問では、県と比べても平均正答率が低く、4.3ポイント下回っていた。	・漢字の学習をする際に、読み方だけでなく、漢字の組み立てに焦点を当てて指導したり、漢字辞典を使う機会を意図的に設けたりする活動を取り入れる。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は81.8%で市と比べて0.6ポイント低かった。 ○「文を読み、適することわざを選ぶ。(急がば回れ)」の項目に関して、県の平均正答率と比べると2.9ポイント高かった。 ●誤答の内容を見ると、「ちりも積もれば山となる」を選択している児童の割合が、市と比べて2.6ポイント、県と比べて2.5ポイント下回った。	・分からない言葉や漢字を辞典で調べる機会を増やしたり、ことわざを使って例文を書いたりするなど、ことわざに慣れ親しむ活動を取り入れる。 ・授業等の学習の中で、ことわざを取りあげた際には、意味の似ていることわざも合わせて取りあげるなど、複数のことわざを関連付けて知ることができるような工夫を取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は83.4%で市と比べて1.5ポイント高かった。 ○県の平均正答率と比べると「話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ」設問では、3.5ポイント高かった。 ●「意見の共通点に着目して、司会者の発言に適する内容を書く」設問では、共通点を簡潔に記入した児童は、市や県の平均回答率と比べると6ポイント以上低く、具体的な内容まで記入してしまった児童は、9.5ポイント以上下回っていた。無回答の児童の割合も11.7%であった。	・話の内容を聞く力が身に付きつつある児童も多いので、今後は話の内容から共通点を見出したり、違いを考えたりすることを国語の時間に限らず指導していく。 ・無回答の児童も多いことから、指定された条件を守りながら話す(書く)経験が必要だと考える。単元の終わりなどで、条件を出して話す機会を設定していきたい。
書くこと	平均正答率は34.7%で、市と比べて8.8ポイント低かった。 ●どの設問においても、市町全体、県全体の正答率よりも下回っている。特に、「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる。」設問では、市町全体の正答率よりも10.8ポイントと大幅に下回っている。また、無回答児童の割合も多かった。	・無回答の児童も多いことから、書くことに慣れていくことが課題だと考えられることから、物語文や説明文の学習を行う際に、自分の考えを書く活動を取り入れていく。 ・文章を書く際には、例を提示する等の指導を工夫する。 ・書く力を高めていくために、国語の授業の時間で文字数や段落等の条件に合わせて書く活動も取り入れていきたい。

読むこと	平均正答率は50.3%で、市と比べて1.1ポイント低かった。 ○問題別に見ると、物語文よりも説明文の設問の方が、全体と比べて上回っているものが多い。特に、「叙述をもとに文章の内容をとらえることができるかどうかをみる。」設問では、市町全体の正答率よりも5.1ポイント上回った。 ●「文章を読んで感じたことや考えたことを共有することができるかどうかをみる。」設問は市町全体の平均を大幅に下回った。	・国語の授業の中で、文章に書かれている事実と筆者の考え、自分の考えを区別して述べられるように指導していく。 ・物語文では正確に登場人物の心情を読み取るために、文の前後の叙述一つ一つに着目し、登場人物のおかれている状況等を捉えられるように指導していきたい。 ・説明文では、内容の要点を捉えるために、段落やまとまりに着目させる。文章を要約する際にも、段落やまとまりを意識し、文章の構成を捉えさせた上でまとめるよう指導していく。また、スモールステップとして、キーワードとなる言葉や文を見つけさせるなどの指導の工夫もしていきたい。
-------------	---	---

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.4	59.7	59.2
	図形	50.9	52.1	52.1
	変化と関係	54.2	56.1	56.3
	データの活用	59.1	60.1	58.9
観点	知識・技能	62.8	65.5	65.1
	思考・判断・表現	42.7	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

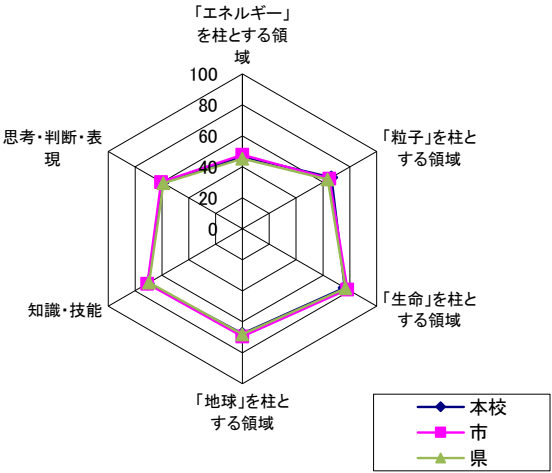
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	市の平均は59.7%、校内の平均は57.4%と下回っている。 ○式の意味を正しくとらえ、言葉で説明する問題では、市の平均を6.2%上回っている。問題文の内容について質問し理解を深めている学習の積み重ねにより、問題の内容を的確に解答できたと考えられる。 ●3けた÷2けた＝2けた(余りあり)の計算問題に課題が見られる。また、無解答率も高い。	・これまで通り、計算の反復練習を重ねながらコース別学習や個別指導を行う中で、継続的に一人一人に応じた丁寧な指導を行っていく。 ・ミニテストやスマイルネクストなどを活用し、基礎・基本的な知識及び技能の定着を図りながら、計算の筋道を説明していく場を継続的に設け、理解している児童の思考をより深めたり、考え方を広めたりしていく。
図形	市の平均は52.1%、校内の平均は50.9%と下回っている。 ○身近なものの面積や単位として正しいものを選ぶ問題では、市の平均を7.1%上回っている。日常生活の中で、物の広さについての感覚が育っていると考えられる。 ●ひし形の作図を行う問題に課題が見られ、市の平均を7.6%下回っている。	・身近なものの面積を求めるなど、日常生活と関連させて考えることで、面積や体積の大きさについての感覚が育成されるように引き続き指導する。しかし、面積の単位の関係については、班で具体物など掲示して視覚的に理解を深めていく。 ・図形の性質の理解を深めることによって、作図方法を考えることができるように指導を行う。また、別解答している児童も見られることから、反復学習の場を設けていく。
変化と関係	市の平均は56.1%、校内の平均は54.2%と下回っている。 ○数量の関係をとらえ、正しく表された図を答える問題では、市の平均を6.2%上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題では2問とも市の平均を下回っている。また無解答率も高いことから、計算問題などに時間がかかりじっくり考える時間が足りなかったのではないかと考えられる。	・伴って変わる量について、表を見て見付けた変化や対応の規則性について説明する活動を行うようにする。 ・表を横に見たり、縦に見たりした際に、四則の計算をすると規則性が明らかになることに気付かせることや表の見方を変えることで二つの数量の関係の特徴を見つけられるようにする。 ・実生活でも、何倍かや何個分かなどの見当や見積もりをもてるようにしていきたい。
データの活用	市の平均は60.1%、校内の平均は59.1%と下回っている。 ○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題では、市の平均を1.3%上回っている。 ●2つの折れ線グラフから分かることとして正しいものを選ぶ問題に課題が見られ、市の平均を4.9%下回っている。	・社会科での資料の読み取りなど他の教科においても、グラフなどの資料の見方を確認することで正確に読み取ることができるようにする。 ・誤答からぱっと見てよく考えずに答えてしまう傾向が見られるので、じっくり考え、読み取った内容から分かることを説明する場を設けていく。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	46.6	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	66.4	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	76.2	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	67.7	69.5	68.1
観点	知識・技能	70.5	70.8	69.5
	思考・判断・表現	59.6	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	※以下の分析については、県平均との比較。 ○3問の設問とも正答率は県と同じ傾向にあるが、電流が大きくなる回路を選ぶ設問では正答率61.5%であり、県の正答率を7.1%上回った。 ●簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える設問は短答式であったが、無回答率が12.8%と高かった。正答率61.5%の回路を問う設問は選択式にも関わらず無解答率が7.7%であった。	・グループ学習などを効果的に取り入れ、機器の取り扱い方を互いに教え合うようにして、用語などの知識をしっかりと身に付けられるようにする。 ・実験や観察を行い、得られた結果をまとめて終わるだけでなく、その理由なども考えさせ、自分の言葉や図でまとめる学習を継続していく。
「粒子」を柱とする領域	※以下の分析については、県平均との比較。 ○11問の設問中、5問は県の正答率を5%以上上回り、特に金属のあたたまり方の理解では短答式ではあったが、正答率94.9%と高かった。 ●ボールに空気を入れるとはずむ理由を問う短答式の設問のみ、県の正答率を5.3%下回り、無解答率も7.7%と高かった。	・ICT機器を活用して既習の内容や生活経験を提示するとともに、自然現象を観察するときや日常生活の中で、学習内容を積極的に活用できるようにする。 ・実験や観察をして得られた結果をまとめて終わるだけでなく、その理由なども考えさせ、自分の言葉や図でまとめる学習を継続していく。
「生命」を柱とする領域	※以下の分析については、県平均との比較。 ○季節によって気温や動物のようすが違うことを理解しているかを問う設問では、正答率91%と高かった。 ○この領域の5問の設問中、無回答者は0人であった。 ●腕を曲げた時の筋肉の様子を理解しているかどうかを問う設問では、県の正答率を8.6%下回った。	・ICT機器を活用して知的な情報をたくさん取り入れるとともに、定期的に校庭や中庭の観察と記録をさせることによって、さらに表現力を高めさせる。 ・コロナの感染状況にも注意しながら、人体模型だけでなく、実際に自分や友達の体を触れるなど具体的な活動を通して、思考力を高める。
「地球」を柱とする領域	※以下の分析については、県平均との比較。 ○12個の設問中、県の正答率を5%以上上回ったのは3個であった。 ●水の流れと地面の傾きについて理解しているかどうかの記述式設問では、正答率32.1%と低く、さらに無解答率は15.4%であった。	・実験器具や用具の名称や使い方に慣れるように、グループ活動を意図的に実施する。 ・ICT機器を活用して既習の内容や生活経験を提示するとともに、自然現象を観察するときや日常生活の中で、学習内容を積極的に活用できるようにする。 ・実験や観察をして得られた結果をまとめて終わるだけでなく、その理由なども考えさせ、自分の言葉や図でまとめる学習を継続していく。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習について、「勉強していてもおもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していても『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」と8割を超える児童が肯定的回答をしており、前向きに学習に取り組んでいることが分かる。

●「授業で自分の考えをまとめて書くことは難しい」と回答している児童が6割程度と多い。学習状況調査でも「書くこと」の領域では、どの設問においても市や県の正答率よりも下回っている。無回答の児童も多いことから、文章を書く際には例示したり、条件に合わせて書いたりする等の活動も取り入れていく。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定的回答の割合は9割を超え、高いポイントを示している。一方で、「自分がクラスの人に役立っている」と思っていない児童が4割以上いる。係や当番活動、委員会やクラブ活動、縦割り班活動などにおいて、一人一人が活躍する場を意図的に設け、児童の自己肯定感が高められるよう、働きかけていく。

●「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答の割合は8割弱で、県の平均より1割程度低い。また、「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定的回答は6割程度である。キャリア教育を充実させるとともに、児童が将来に関することを保護者と一緒に考え共有する機会を設ける等、家庭の協力を得る機会を増やすよう工夫していきたい。

●「平日、テレビや動画などを4時間以上見る」と回答した児童は2割を超えている。また、「ゲーム等を遊んだりする時間」が3時間を超える児童が3割近く見られた。学習や読書の時間に充てられるよう、家庭への働き掛けを推し進めていく。

宇都宮市立築瀬小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
追究意欲を高められるような学習課題の設定	全ての学年で、どの教科においても実社会や実生活に関わる教材などを積極的に取り入れながら、児童が自分事として学習に取り組めるような導入の工夫を行っている。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に肯定的に回答した5年生児童の割合が、昨年度4年生のときと比べて少しずつ向上している傾向が見られる。しかし、未だに4・5年生とも県や市の肯定的回答よりも低い結果であるので、今後も引き続き力を入れてきたい。
児童同士が学び合える活動等の工夫	学習形態を工夫したり、タブレットを活用したりするなど、自分の考えと友達の考えを比較検討できる場面を多く設定している。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した5年生児童の割合が、昨年度4年生だったときと比べて6.6ポイント増加している。
主体的な学びにつなげる振り返りの充実	その授業で身に付けさせたいことについて、振り返る際に観点を示し、自分の学びに付いて自己評価できるようにしている。	4・5年生ともに、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」に肯定的に回答した児童の割合は、県や市より大きく下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査では、国語・算数において資料の読み取りや活用があまり理解できていないことが分かった。 書くことについて学年で差が見られることが分かった。	様々な場面での資料の活用 発達の段階に応じた書く題材の選定	教科の学習で資料を積極的に活用し、その資料からどんなことが分かるかを授業中に繰り返し取り上げていく。 書くことへの習慣化を図るため、自分の言葉で児童自身が振り返りを書く時間を設けたり、モジュールタイムを活用したりして書く活動を行っていく。